

パラオだより

最終号

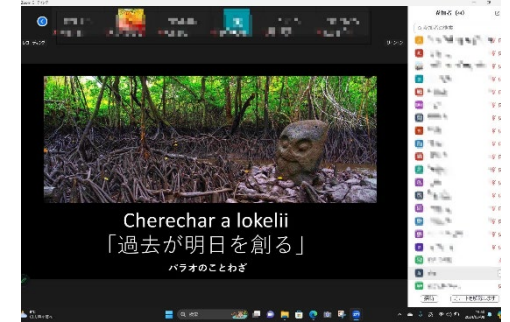
ありがとう、パラオ



約1年と7か月。筒井先生はパラオでの活動に全力をつくしてきました。うまくいったこともあれば、うまくいなくて悔しい思いをしたこともたくさんあります。落ちこんだ時、いつも支えてくれたのは村の子ども達と先生方、そして地域の人たちでした。正直、筒井先生がアルモノグイ小学校の何かを変えられたわけではないかもしれません。ただ、筒井先生自身が、協力隊活動を通して大きく成長できたことは間違いありません。この国で学んだことを忘れないように、そしてつながりを大切にしながら、4月からまた新番丁小学校でがんばります。進化した筒井先生の今後をお楽しみに！

自主講演会

1年7か月かけて筒井先生は、パラオについてとてもくわしくなりました。特に今から何百年以上も前の古代のパラオ人がどんな生き方をしていたのかを勉強し深く理解できたので、自主講演会をズームで行うことにしました。そして超大作のスライドが完成しました。



パラオの国内外から40名の方々に参加していただきました。新番丁小学校の先生も参加してくださいました。ありがとうございました。筒井先生はパラオの古代史について、一緒に発表した仙田さんという隊員は古代のセーリング技術について発表しました。パラオのことがとてもよくわかったという声をたくさんいただきました。

ナイトマーケットでお手玉ひろう

月に2回、KBブリッジという大きな橋のふもとで夜市が行われています。出店がたくさん並び、地元の人々が作った特産品が並びます。ステージが用意され、そこではパラオの伝統的なダンスや歌などもひろうされています。筒井先生はこのステージに立つことがずっと夢でした。



そして、最後の最後にチャンスが回ってきて、ステージに立つことができませんでした。筒井先生はスペシャルゲストとして、日本のお手玉をひろうしました。パラオ語でお手玉はオサライと言います。何百人といういろんな国の人達が見ている前でやりとげました。